

二本松城本丸

日本の城の本丸は城の主要な場所であり、城壁に囲まれ、何が起ころうとも守られるように設計されています。ほとんどの城では、本丸には天守と呼ばれるそびえ立つ監視塔のほか、住居、行政スペース、倉庫などとして使用される建物が置かれていました。戦の際、劣勢になった時、本丸は防御側が最後の守りを固めるために集まった場所でした。敵が本丸を突破すれば戦いは負けに終わったのです。

丹羽家時代の本丸周囲の石垣が発掘・復元されており、城が最盛期の様子を偲ばせます。本丸は防御力を高めるために高台に置かれたため、現在、その跡地は東に二本松市街、西に安達太連峰のパノラマの景色を望む展望台となっています。

天守閣の不在

二本松城の本丸の北隅には、「天守台」と呼ばれる一段高くなった広場があります。歴史家たちは長い間、ここにあった天守閣は 1868 年に城が火災に遭ったときに破壊されたと考えていましたが、慎重な考古学調査の結果、最終的にこの場所には天守閣が作られたことがなかったことが明らかになりました。

なぜ二本松城には天守台があったにもかかわらず天守閣がなかったのかは不明ですが、最も可能性が高い理由は政治的な背景によるものです。城主が基礎の上に天守閣を建設する資金を持つようになった頃には、防御すべき脅威は存在しなかったため、徳川幕府としては二本松城が城の軍事能力を増強して反乱の可能性を高めるような建築許可を出すことに利点を見出さなかったのです。

門を守る

二本松城の本丸への唯一の入り口は南門でした。現在は当時の姿が復元されています。当時のほとんどの城と同様に、門は右方向にある曲輪と本丸の手前の二番目の門に向かって開きました。突撃しようとする攻撃者を妨害するこの構造により、門の防御性が向上したほか、曲輪は防御側が突撃の準備をする際の便利な拠点としても機能しました。